

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	2020年2月14日
【四半期会計期間】	第45期第3四半期(自 2019年10月1日 至 2019年12月31日)
【会社名】	伊豆シャボテンリゾート株式会社
【英訳名】	Izu Shaboten Resort Co., Ltd
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 北本 幸寛
【本店の所在の場所】	東京都港区南青山7-8-4
【電話番号】	03-5464-2380
【事務連絡者氏名】	経営企画室室長 桑原 亮介
【最寄りの連絡場所】	東京都港区南青山7-8-4
【電話番号】	03-5464-2380
【事務連絡者氏名】	経営企画室室長 桑原 亮介
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第44期 第3四半期 連結累計期間	第45期 第3四半期 連結累計期間	第44期
会計期間	自 2018年4月1日 至 2018年12月31日	自 2019年4月1日 至 2019年12月31日	自 2018年4月1日 至 2019年3月31日
売上高 (千円)	2,328,872	2,245,101	3,101,616
経常利益 (千円)	322,773	278,315	413,653
親会社株主に帰属する四半期 (当期)純利益 (千円)	319,916	232,635	385,663
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	317,114	239,396	382,987
純資産額 (千円)	2,072,110	2,377,312	2,137,976
総資産額 (千円)	2,577,366	2,903,753	2,655,385
1株当たり四半期(当期)純利益 (円)	11.24	8.17	13.54
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益 (円)	—	—	—
自己資本比率 (%)	80.4	81.9	80.5

回次	第44期 第3四半期 連結会計期間	第45期 第3四半期 連結会計期間
会計期間	自 2018年10月1日 至 2018年12月31日	自 2019年10月1日 至 2019年12月31日
1株当たり四半期純利益 (円)	3.45	0.88

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)において営まれる事業の内容に重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中における将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

(1) 経営成績の分析

当第3四半期連結累計期間における我が国経済は企業収益や雇用環境の改善傾向が続いており、緩やかな回復の動きが続いております。また、個人消費については10月の消費税率引き上げによる落ち込みからは持ち直しつつあります。一方で米中貿易摩擦の長期化や英国のEU離脱問題等、先行きは不透明な状況で推移しています。

このような状況下、当社が展開する各レジャー施設では、経営理念である「ステークホルダーと共に」及びブランドスローガンである「ご来園者の笑顔のために」の元に、各施設の入園者数と売上確保に努めております。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間は、売上高2,245百万円（前年同四半期比3.6%減）、営業利益254百万円（前年同四半期比18.8%減）、経常利益278百万円（前年同四半期比13.8%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益232百万円（前年同四半期比27.3%減）となりました。

当第3四半期連結累計期間の概況は次のとおりであります。

伊豆シャボテン動物公園では、元祖カピバラの露天風呂が開催されております。来る2020年がねずみ年でもあり、現在生息しているげっ歯類（ねずみの仲間）の中で最大種であるカピバラにより一層の注目が集まる状況であります。

伊豆ぐらんぱる公園では、5年目を迎えた伊豆高原グランイルミが開催されております。クールジャパン・マッチングアワードの審査員特別賞を受賞したこともあり、認知度の更なる高まりを受け一層の国内外への周知をすすめてまいります。

また、伊豆シャボテン動物公園グループのWebショップをオープンいたしました。「伊豆シャボテン本舗」という名称で、Webショップ限定商品なども多数ご用意しております。

(2) 財政状態の分析

1. 資産

流動資産は、前連結会計年度末に比べて70百万円減少し、605百万円となりました。これは主として、現金及び預金が192百万円減少したこと等によります。

固定資産は、前連結会計年度末に比べて319百万円増加し、2,298百万円となりました。これは主として、建物及び構築物が312百万円増加したこと等によります。

この結果、資産合計は前連結会計年度末に比べて248百万円増加し、2,903百万円となりました。

2. 負債

流動負債は、前連結会計年度末に比べて17百万円減少し、287百万円となりました。これは主として未払法人税等が16百万円減少したこと等によります。

固定負債は、前連結会計年度末に比べて26百万円増加し、239百万円となりました。これは主として、リース債務が23百万円増加したこと等によります。

この結果、負債合計は、前連結会計年度末に比べて9百万円増加し、526百万円となりました。

3. 純資産

純資産合計は、前連結会計年度末と比べて239百万円増加し、2,377百万円となりました。

また、自己資本比率は前連結会計年度末の80.5%から81.9%となりました。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、当連結会社の事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(4) 研究開発活動

当第3四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動について、特記すべき事項はありません。

3 【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

① 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	50,000,000
計	50,000,000

② 【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間 末現在発行数(株) (2019年12月31日)	提出日現在 発行数(株) (2020年2月14日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	28,496,537	28,496,537	東京証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	単元株式数は100株であります。 完全議決株式であり、権利内容に 何ら限定のない当社における標準 となる株式です。
計	28,496,537	28,496,537	—	—

(2) 【新株予約権等の状況】

① 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

② 【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
2019年12月31日	—	28,496,537	—	100,000	—	186,500

(5) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(6) 【議決権の状況】

① 【発行済株式】

2019年12月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式(自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式(その他)	—	—	—
完全議決権株式(自己株式等) (注1)	普通株式 23,200	—	—
完全議決権株式(その他) (注2)	普通株式 28,257,400	282,574	—
単元未満株式	普通株式 215,937	—	1単元(100株)未満の株式
発行済株式総数(注3)	28,496,537	—	—
総株主の議決権	—	282,574	—

(注1) 「完全議決権株式(自己株式等)」欄は、全て当社保有の自己株式であります。

(注2) 「完全議決権株式(その他)」欄の普通株式には、証券保管振替機構名義の株式が29,000株(議決権の数290個)含まれております。

(注3) 当第3四半期会計期間末日現在の「発行済株式」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日(2019年9月30日)に基づく株主名簿による記載をしております。

② 【自己株式等】

2019年12月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
伊豆シャボテンリゾート 株式会社	東京都港区南青山 7-8-4	23,200	—	23,200	0.08
計	—	23,200	—	23,200	0.08

2 【役員状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当四半期累計期間における役員の異動はありません。

第4 【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間(2019年10月1日から2019年12月31日まで)及び第3四半期連結累計期間(2019年4月1日から2019年12月31日まで)に係る四半期連結財務諸表について、KDA監査法人により四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2019年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	551,976	359,552
売掛金	59,582	75,056
未収入金	1,484	-
商品等	32,815	49,213
その他	30,286	121,329
流動資産合計	676,145	605,151
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	1,449,521	1,762,237
土地	23,364	23,364
その他	331,806	297,093
有形固定資産合計	1,804,692	2,082,695
無形固定資産		
ソフトウェア	602	123
無形固定資産合計	602	123
投資その他の資産		
投資有価証券	8,198	14,959
長期化営業債権	12,156	3,156
破産更生債権等	754	754
繰延税金資産	89,180	101,898
その他	76,565	98,925
貸倒引当金	△12,911	△3,911
投資その他の資産合計	173,944	215,783
固定資産合計	1,979,239	2,298,602
資産合計	2,655,385	2,903,753

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2019年12月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	38,476	39,622
未払金	157,171	164,742
前受金	27	27
預り金	8,864	10,123
未払法人税等	24,408	7,489
災害損失引当金	-	16,039
賞与引当金	21,599	9,268
その他	54,609	39,968
流動負債合計	305,156	287,281
固定負債		
退職給付に係る負債	150,110	156,202
リース債務	9,326	32,378
その他	52,815	50,577
固定負債合計	212,251	239,158
負債合計	517,408	526,440
純資産の部		
株主資本		
資本金	100,000	100,000
資本剰余金	425,423	425,404
利益剰余金	1,630,446	1,863,081
自己株式	△12,150	△12,190
株主資本合計	2,143,720	2,376,295
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△5,743	1,017
その他の包括利益累計額合計	△5,743	1,017
純資産合計	2,137,976	2,377,312
負債純資産合計	2,655,385	2,903,753

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2018年4月1日 至2018年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自2019年4月1日 至2019年12月31日)
売上高	2,328,872	2,245,101
売上原価	778,781	728,953
売上総利益	1,550,090	1,516,147
販売費及び一般管理費	1,236,582	1,261,528
営業利益	313,508	254,619
営業外収益		
受取利息	38	19
受取賃貸料	1,240	1,571
償却債権取立益	2,887	-
受取手数料	1,059	5,969
保険解約返戻金	-	14,321
その他	4,134	2,565
営業外収益合計	9,361	24,447
営業外費用		
支払利息	40	710
為替差損	11	-
その他	44	40
営業外費用合計	96	750
経常利益	322,773	278,315
特別利益		
固定資産売却益	2,196	157
受取保険金	33,212	501
特別利益合計	35,409	658
特別損失		
災害による損失	-	16,416
災害損失引当金繰入額	-	16,039
その他	-	0
特別損失合計	-	32,455
税金等調整前四半期純利益	358,183	246,518
法人税、住民税及び事業税	25,938	26,600
法人税等調整額	12,328	△12,717
法人税等合計	38,266	13,883
四半期純利益	319,916	232,635
非支配株主に帰属する四半期純利益	-	-
親会社株主に帰属する四半期純利益	319,916	232,635

【四半期連結包括利益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)
四半期純利益	319,916	232,635
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△2,801	6,761
その他の包括利益合計	△2,801	6,761
四半期包括利益	317,114	239,396
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	317,114	239,396
非支配株主に係る四半期包括利益	-	-

【注記事項】

(継続企業の前提に関する事項)

該当事項はありません。

(追加情報)

(台風など大雨による被害の発生)

2019年9.10月に発生した台風15号及び19号により、当社施設内の建物等が損壊する被害が発生いたしました。

これらの現状復旧費用として「災害による損失」として特別損失に16,416千円計上しております。なお、今後復旧に要すると見込まれる費用の見積額16,039千円を「災害損失引当金」として四半期連結貸借対照表の流動負債に、「災害損失引当金繰入額」として四半期連結損益計算書の特別損失にそれぞれ計上しております。

また、当社は当該災害に係る被害に備えた保険を付しておりますが、当第3四半期連結会計期間末において保険金受取額が未確定なものについては、保険金収入を未収計上しておりません。

(四半期連結貸借対照表関係)

偶発債務

保証債務

連結子会社以外の会社の金融機関からの借入に対して、債務保証を行っております。

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2019年12月31日)
スイート・ベイジル(株)	106,375千円	77,694千円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費（のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。）は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (2018年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (2019年12月31日)
減価償却費	135,377千円	151,081千円

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)

当社グループは、レジャー事業のみの単一セグメントであるため、記載を省略しております。

II 当第3四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)

当社グループは、レジャー事業のみの単一セグメントであるため、記載を省略しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項 目	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)
1株当たり四半期純利益	11円24銭	8円17銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益(千円)	319,916	232,635
普通株主に帰属しない金額(千円)	—	—
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純利益 (千円)	319,916	232,635
普通株式の期中平均株式数(株)	28,473,565	28,473,205
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり 四半期純利益の算定に含めなかった潜在株式で、前 連結会計年度末から重要な変動があったものの概要	—	—

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2020年2月14日

伊豆シャボテンリゾート株式会社
取締役会 御中

KDA監査法人

指定社員
業務執行社員 公認会計士 佐 佐 木 敬 昌 印

指定社員
業務執行社員 公認会計士 毛 利 優 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている伊豆シャボテンリゾート株式会社の2019年4月1日から2020年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（2019年10月1日から2019年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（2019年4月1日から2019年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べ限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、伊豆シャボテンリゾート株式会社及び連結子会社の2019年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。
2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。